

市民と市長の意見交換会<両津地区 昼の部> 質疑要旨

日時：令和3年11月13日（土）14：00~16:00 会場：佐渡島開発総合センター3階 大集会室

参加人数：70名

○質疑要旨

質問者 (居住地区)	意見の要旨	市長の回答	関係部署
両津湊	コロナが比較的落ち着いている現状において、イベントを実施する際の感染症対策や飲酒、飲食等の対応基準。地元の祭りなどの小規模な催しと、延べ人数が千人規模になるような比較的規模の大きいイベントとの対策の違いについて、ガイドラインを示してほしい。	コロナ対策は距離と換気の問題が大きいと考えている。現段階では大規模ホールを使う場合は2分の1程度を目安に開催、地域の祭りのような小さなイベントを外で行う場合は問題ないと思う。飲食を伴う場合はそれに合わせた対策を取ってほしい。イベント開催時期の感染状況に応じた対応もお願いしたい。	防災管財課
両津夷	両津で営業をしているが、観光客から近くにゆっくり観光できる場所がないか聞かれる機会が多い。ぜひ加茂湖を勧めたいので、遊歩道や両津博物館などの近隣施設を整備してほしい。	地元の人による地域の魅力発掘は重要。どんどん議論してほしい。「e-bike」や自転車で両津近辺を巡って港町の風情を感じるのも良い。加茂湖も魅力的だと思う。遊歩道の整備は実際に多くの人に使用してもらいながら考えていきたい。	観光振興課 社会教育課 建設課
住吉	避難困難者の支援モデル地域を作るという話があったと思うが、どうすればモデル地域になれるのか。	避難できない方だけではなく、災害の際にどのように逃げるかという地区防災避難計画を作成していく。モデル地域は、両津支所も含めて議論しながら一步一步進めていくイメージを考えている。集落として取り組みたいということであれば、支所に連絡してほしい。	防災管財課 両津支所
両津夷	人口減少について。子どもたちの多くが高校卒業後島外に出てしまう。戻ってきてもらうためには学校教育が重要だと思う。小中学校について、今後は学校統合を進めるのか、それとも小さい学校を残していくのか。小さい学校だと学力格差が生まれるのではないのか。	まさしく人口減対策に教育が重要だと思っている。学校だけでなく地域全体で、子どもを佐渡に戻す仕組みを作りたいと考えている。その一環として奨学金制度の見直しを行った。学校教育の方針は教育委員会に任せている。保育園から少人数だと人間関係が変わらないという課題があり、一方で統合により学校が遠くなることも問題であるため、地域や保護者と議論しながら取り組んでいきたい。	教育総務課 学校教育課
貝塚	佐渡金山の世界遺産登録、飛行機の首都圏直行便など佐渡にとっては何十年に一度のビッグチャンスが到来する中で、両津地区の発展も重要な課題である。 先ほども提言があったが、加茂湖周辺の開発。特に飛行場にも近い樹崎神社周辺は景観が素晴らしいので、整備をぜひお願いしたい。	首都圏との直行便は、利便性や冬季観光の面から大きなポテンシャルがある。ただし、飛行機の搭乗定員が少ないため、飛行機を活用してフェリー最終便と夜行バスの組み合わせの提案など波及効果を生み出したい。加茂湖についても、例えば湊から船でホテルに送迎するというのも面白いと思う。世界遺産登録を見越したインバウンドのお客様への対応なども早急に進めなければならない。民間でも観光交流機構などを交えて協議を進めてほしい。	交通政策課 観光振興課 建設課
浜田	この建物(佐渡島開発総合センター)の玄関に佐渡の地図が置いてあるが、世界地図なのに38度線が引かれていないのが気になる。佐渡に必要なデータを明記するなどグローバルに対応してほしい。	色々な国の人が来島することを想定する中で、地図や看板に多くの要素を詰め込みすぎると、かえって分かりにくくなり使いづらいので、例えば観光に特化したもの、道路に詳しいものなど、それぞれ必要や用途に応じた形で作成していく。歴史的背景などの詳細については、多言語変換ソフトを活用し端末で読めるようにするなど、世界遺産登録を見据えて、文化面の取り組みもしっかりと行っていく。	社会教育課

市民と市長の意見交換会<両津地区 昼の部> 質疑要旨

両津福浦	以前は佐渡汽船で新幹線のチケットを購入できたが現在は扱っていない。特に身体障がい者の場合、現地での購入に時間がかかってしまい、出発時間に間に合うか焦ってしまう。再び佐渡で購入できるようにお願いしてもらえないか。	旅行代理店が人件費削減で店舗を削減している現状、インターネットで席予約等の対応が可能なため、対応は難しいと思われるが、JR東日本企画が佐渡に営業所を設けたので提案してみたいと思う。	交通政策課 観光振興課
月布施	カーフェリー「あかね」の件、報道で60億円で購入し30億円で売却したと聞いた。購入金額に佐渡のお金は入っているのか？長崎県は離島からは一銭も出していないという話だ。佐渡航路は国道でもあるので、今後は国や県からお金を出してもらえるように交渉してほしい。	「あかね」購入には約8.1億円を支出している。佐渡航路に関して、予算を国や県にお願いしたいのは同じ思いであり、特に県には国との交渉に際しリーダーシップを発揮してもらえるよう働きかけていく。	交通政策課
三瀬川	地域の活性化に市職員や教員の退職者に協力をお願いできないか。 地球温暖化対策は何か計画しているか。 セイタカアワダチソウの駆除をお願いしたい。	退職者に全て委ねるのではなく、地域が一体となり、その中で活動していくのが望ましい。地域づくりは地域みんなで議論して進めるのが重要。 地球温暖化対策として環境省が提唱する「環境循環共生圏」があり、その手法がSDGsの17の目標である。自然と共生しながら暮らせる佐渡島の特性を活かした活動を行っていく。その一つとして「3R」（リユース、リデュース、リサイクル)の取り組みにも力を入れていきたい。 セイタカアワダチソウについては草刈りを行うことが重要。主に雑種地に生えるので、耕作放棄地を減らすなど、維持管理をどうしていくのかを考えなくてはならない。	環境対策課 農業政策課
住吉	大気汚染や地球温暖化といった地球規模の危機が迫っている中、今後どのように対策していくのか。	環境問題は喫緊の問題。環境省が提唱する「地域循環共生圏」を目指して、SDGsを推進していきたい。自然と共生しながらエネルギーや食、生活や文化活動を行う。これは佐渡だから出来ることである。 環境対策としては「3R」の取り組みでCO2の削減に努めたい。	環境対策課
春日	ICTやDXなどデジタルに関する分野について、現在IT企業の誘致を積極的に行っているが、一方でマイナンバーカードの加入率の低さや光ファイバーの未整備地域など、島内でのデジタル環境が整っていない状況について、今後の方針をお聞きしたい。	今後創設するデジタル政策室にて戦略を作り、遠隔地医療やローカル5Gなど様々な課題についての道筋を作る。ただし全体的に取り掛かるとなると大きな予算が必要。デジタル庁の動きを注視しながら、まずは出来ること、例えば広報誌のデジタル化などに取り組んでいく。外部人材の力も借り、政策が出来たら説明会などを行い市民からも意見をお聞きする。	総務課
下久知	地域通貨を地域貢献の分野でも活用できないか。福祉や防災などの分野で、ボランティアによる地域活動のお礼として、その地域の中で買い物をしたりサービスを受けられるようにするなど。島内限定であれば現金でなくても構わないのではないか。	大変前向きな意見だと思う。主に観光客対象に使用している「だっちゃコイン」を、佐渡市民向けに何かできないか検討をしているところでもあるので、ボランティアへの活用というのは面白いアイデアだ。地域コミュニティの維持が難しくなっている現状で、除雪や草刈り、道普請などの活動を支援していく方法を模索している。検討を重ねるため少し時間をいただきたい。	企画課